（1）「患者分類試案妥当性調査」結果

□平成 16 年度調査対象病院より 65 病院（84 病棟）を対象に、「患者分類試案妥当性調査」を実施した（平成１７年８月）。

①療養病棟の役割に関する主な結果

□調査結果は以下のとおり。特に、入院中の患者が下記の状態となった場合についてみると、「一般病棟併設なし」の病棟では、肺炎、脱水等において「原則として対応する」とした割合が９割を超えている。

■入院中の患者が発症した場合に「原則として対応する」割合

患者の状態	調査対象 84 病棟の結果		
	一般病棟併設あり	一般病棟併設なし	合計
	%	%	%
1.肺炎	52.5	93.2	73.8
2.創感染	—	—	—
3.皮膚の感染症	82.5	95.5	89.3
4.手術創	—	—	—
5.発熱を伴う嘔吐	77.5	95.5	86.9
6.脱水	77.5	95.5	86.9
7.末期の疾患であり、余命が６ヶ月以下である	72.5	86.4	79.8
8.妄想	72.5	65.9	69.0
9.幻覚	72.5	65.9	69.0
10.抗生物質注射	60.0	95.5	78.6
11.個室における管理が必要	62.5	84.1	73.8

■新規入院患者として受け入れる場合に「原則として受け入れる」割合

患者の状態	調査対象 84 病棟の結果		
	一般病棟併設あり	一般病棟併設なし	合計
	%	%	%
1.肺炎	20.0	68.2	45.2
2.創感染	37.5	56.8	47.6
3.皮膚の感染症	27.5	68.2	48.8
4.手術創	32.5	50.0	41.7
5.発熱を伴う嘔吐	17.5	72.7	46.4
6.脱水	30.0	81.8	57.1
7.末期の疾患であり、余命が６ヶ月以下である	47.5	86.4	67.9
8.妄想	32.5	38.6	35.7
9.幻覚	35.0	38.6	36.9
10.抗生物質注射	30.0	72.7	52.4
11.個室における管理が必要	40.0	59.1	50.0